

「本当の性を隠したくない」。心と体の性が一致しない性同一性障害(G I D)を職場に打ち明け、生き生きと働く人がいる。体は女性だが心は男性の彩森灯真(本名・定久恭子)さん(34)=倉敷市。当事者

が自分らしく働ける職場は依然少なく、彩森さんもこれまで転職を余儀なくされた。それでもG I Dに対する社会の理解は徐々に広がり、専門家からは雇用環境改善の傾向が指摘されている。(民直弘)

「自分を隠して生きてたくない」

性同一性障害公表し働く 彩森さん(倉敷)

偏見ない職場に喜び

「偏見を恐れ、自分を隠る自分の居場所を見つけ生きていくのは、うられた」と喜ぶ。だが、職場の同僚にもG I Dについて話したが、不快

小・中・高校時代、彩森さんは女子の制服を着るのが嫌でたまらなかつた。卒業後も性別への違和感はずっと続き、二〇〇七年にG I Dと診断。現在はホルモン剤で男性らしい体にする治療を受けている。

小・中・高校時代、彩森さんは女子の制服を着るのが嫌でたまらなかつた。卒業後も性別への違和感はずっと続き、二〇〇七年にG I Dと診断。現在はホルモン剤で男性らしい体にする治療を受けている。



特別養護老人ホームでお年寄りの食事を介助する彩森さん

雇用環境 改善の兆し

「普通の人と比べ、人格や能力が特別変わっているわけでもないのに」。悔しかったです。中塚教授が二月にまとめた調査では、同病院を受診したG I D八百十六人のうち、正規雇用者は41%。同様の調査(対象者百十人)で正規雇用者が30%だった二〇〇一年の好転をうかがわせ

不況の深刻化も重なりG I D当事者の雇用環境は依然厳しい。しかし、治療に当たる岡山大病院の中塚幹也教授は「改善の兆しがある」とする。中塚教授が二月にまとめた調査では、同病院を受診したG I D八百十六人のうち、正規雇用者は41%。同様の調査(対象者百十人)で正規雇用者が30%だった二〇〇一年の好転をうかがわせ

所で面接を受け不採用に。いずれもあからさまに障害が理由だと告げられた。中塚教授はその理由として、G I D特例法(二〇〇四年施行、〇八年改正)で当事者の性別変更が可能となり、外見と戸籍上の性別との違いを解消できるようになったことや、G I Dを公表したモデル・タレントの椿姫彩菜さん、歌手の中村中さんらの活躍を挙げる。